**（様式 3）**

# 令和5年度佐賀大学戦略的PSプロジェクト報告書

令和　６年　　３月２９日

国際交流推進センター長　殿

申　請　者（代表申請者）
部　局　名　農学部
職　　名　農学部長
氏　　名　鈴木　章弘

下記のとおり報告します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1．大学間交流協定校（国・地域） | スペイン国・アルメリア大学 | | |
| 2．種別 | B国際共同教育型 | | |
| 3．実施代表者 | 辻田　忠志 | 4．所属・職名 | 農学部・准教授 |
| 5．連携部局 | 先進健康科学研究科・理工学部・ダイバーシティー推進室・海洋エネルギー研究所 | | |
| 6．国際共同（教育）研究課題 | 再生可能エネルギーおよびバイオマスの課題解決教育 | | |
| 7．令和５年度の実施内容 | • アルメリア大学への学生送り出し<br>• アルメリア大学訪問<br>• 佐賀大学訪問<br>• The First Student seminar開催 | | |
| 8.参加者数<br>※参加者名簿（別添）を添付 | 参加者数　66　名<br>内、教員・研究者数　6名、学生数　25名 | | |
| 9．事業を通じて得られた成果及び今後の計画<br><br>※事業実施の様子について、写真を１～２枚程度提供ください | 【成果】<br>本学(以下SU)とアルメリア大学(以下UAL)は2020年からERASMUS+ Mobility Project (KA107 2020)、続いてKA171 2023を獲得し、両大学の学生、教職員の交流を進め、本PSプロジェクトで強化を図ってきた。<br>令和5年度、本PSプロジェクト採択後、SU側実務教職員のワーキンググループ（以下WG）を組織し、2023年9月23日にSU側の専門的かつ仔細協議を実施し、プロジェクトの概要、初年度の実施項目、今後の計画について議論した。主な実施成果は下記の通りである。 | | |

- 学生の派遣支援

本プロジェクト期間中、今泉千優（経済4年、9-2月）、藤本千穂里（地域デザイン4年、9-2月）、山賀美優（農 修1、10-12月）、吉竹紀子（先進 修1、10-12月）を送り出し、現地での授業履修、研究実施、インターンなど学生主体で情報収拾を展開した。

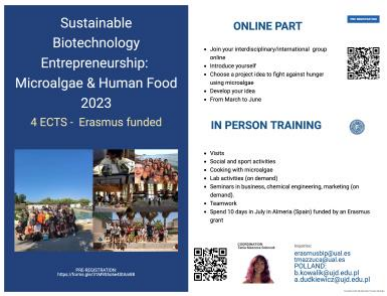
資料 1：左から出村准教授、藤本氏、今泉氏、辻田、吉竹氏 2023.12.06 学生寮 CIVITUS にて。

- 教員派遣（別紙1参照）

11月29日ー12月8日に、農学部辻田・出村の2名でUALに出向いた。期間中、藻類バイオマスの効率的生産および新規有用種の選抜、生産物の利活用を目指した機能性評価方法の確立について協議（Gabriel Acien氏、Maria Jose Ibanez Gonzalez氏、Tania Mazzuka氏）を進めた。また、施設園芸施設で生産する農作物の高度化および生産条件の精緻化研究について（Gabriel Aguilera氏）、自然エネルギーを活用した再生可能エネルギー生産の効率化（Jose Luiis Casas Lopez氏、Manuel Perez Garcia氏、Alfredo Alcayde氏）とも本学の研究者の取り組みについて紹介を行った。滞在中には国際交流担当Hugo Gonzarez氏のアレンジの元、佐賀大学への留学について紹介した。滞在中の空き時間を使って、同時期に滞在していた学生の研究活動状況を実地で確認し、ヒアリングを行った。

- Blended International Internship Program (BI2P)

先進健康科学科修士1年の吉竹氏とともにAlmeria大学におけるBI2P（国際的PBL教育）の現状を調査した。募集開始が2月、開講が3月でアルメリア大学でのプレゼンが6月というスケジュールであり、本学で参加希望者を募るのは次年度以降に持ち越すこととした。




資料 2：BIP2023 年度の募集資料。2024 年度については現在取り寄せ中。

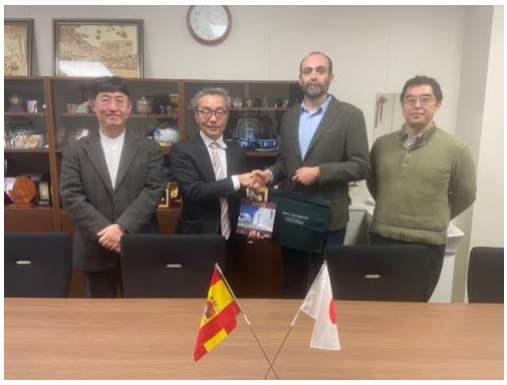
- The First UAL-SU Joint Student Symposium

3月12日に佐賀大学とUAL間でオンラインシンポジウムを開催した。佐賀大学から4名の学生がUALでの研究成果および生活等について報告した。今回は時間的余裕がなく辻田がロジを担当したが、次回からは学生主体で開催すべきと痛感した。

資料 3：The First UAL-SU Joint Student Symposium のフライヤーと開催状況。

- Hugo Gonzalez氏の招聘

現在本学とのERASMUS+交流を担当しているHugo氏を本学へ招聘し、関係部局と懇談した。特に本学が他のEU圏の大学とERASMUSプロジェクトを実施するための助言などをいただくことができ、今後、本学とEU圏大学との交流を促進できると思われる。



資料 4：三島副学長・国際交流推進センター長、石松准教授・国際交流推進センター副センター長との面談。

【令和６年度】

BI2P参加学生の募集選考を進める。現時点で想定しているのは、PBL要素を含むため、大学院生もしくは大学院へ進学希望の3、４年生を想定し、最大3名を募る。本学側の選考はWGが担当し、エッセイ、英会話能力、面接で点数化する。

開講予定科目は下記の予定。

- Diabetes and Salutogenesis
- UNIgreen (UAL's consortium of EU Agriculture universities) on Digitalization of Agriculture companies
- Microalgae

| | |
|---|---|
| | BI2P初期段階は、メンター教員を含めたオンライン討論を定期的に実施し、それぞれのプロジェクトは定期的なオンライン会議でブラッシュアップを参加者主体で進め、最終段階でメンター教員を含めたプレゼンテーション（オンライン中継）を実施する。最終段階で、UALでの実験・実習を経てWGで修了認定をしたのち、各部局で単位認定を実施する。単位認定に関してはECTS 4 creditとなる。UALでのOn site実験に関しては渡航・滞在費の負担をPSで一部賄うことを想定している。1月をめどに、UAL-SUのオンラインシンポジウムの開催を予定している。 |
| | 【令和７年度以降】<br>基本的には令和6年度と同様のプログラムを実施する。1月をめどにSU、UALの共同シンポジウム（オンライン中継を想定）を開催する。この時点までには、相互交流によって、共同研究の機運も高まるはずであるので、国際共同研究加速化基金、二国間交流事業等へWG内で協議して申請をすることとする。<br>UAL側にはERASMUSプログラムの拡大を要望し、獲得に最大限の協力をするものとする。 |
| 10. 支出額 | 金　額　1,365,944円(仮)<br>（内訳）<br>謝金　0円<br>旅費　1,358,752 円(仮)<br>消耗品費　0円<br>雑役務費　7,192 円 |
| 11. 他の外部資金等への申請状況 | JASSO協定校派遣プログラム（タイプB）申請済み<br>ERASMUS+ |
| 12. 実施者アンケート | |
| 本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：4<br>支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：4<br>次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する<br>そのほかコメント：EU 圏との相互往来を含む交流事業と、アジア圏のものを同一予算で実施することには若干無理があると感じるが、実際に運営をしてみて、支援いただいた金額以上の密度の濃い交流が実施できたと実感している。この証左は学生間における口コミの広がりもあ | |

り、アルメリア大学に積極的に留学したい学生が多く相談に来ることからも得られていると感じる。今後、このような広がりを数値化し、事業費と効果を明確にする指標を作るべきと考えている。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。
※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。(Word 貼付けとは別に)